

実践記録

159

シリーズ

「日本語交流ひろば活動状況」

南魚沼市 櫻井 徳治

❖ 日本語教室を開くまで

結婚して外国から来る花嫁さんが増え、日本語指導の要望が市役所に寄せられるようになりました。

そこで、平成18年3月に、「南魚沼地域日本語交流支援実行委員会」を立ち上げ、南魚沼広域事業の補助金で事業実施することに決まりました。

参加者の募集は、各地区の婦人会から外国人花嫁の情報を寄せていただきました。指導者はうおぬま国際交流協会や婦人会などに要請するとともに広報等で呼びかけた結果、43名から協力の申し出がありました。

第1回は日本料理の「太巻きずし」講習会をすることとし、午前・午後と2回開催で、参加者延べ32人、スタッフ49人で平成18年6月4日に実施しました。

その会場で7月から日本語教室を実施することをお知らせして、そこで作った太巻きを食べ、家族にはお土産を持って帰ることができました。

❖ 開始後の教室の状況

第1期の日本語教室は、受講生26人、指導者14名で、出身国や日本語のレベルにより6クラスに分けて、7月9日から始まりました。シンガポールで日本語指導していたスタッフが、テキストの準備やスタッフへの日本語指導に大きな力となってくれました。

3ヶ月を1期とし2期が始まるまでの1ヶ月間に指導者講習や参加者を対象とした料理教室、市内探訪バスツアー、年金、健康保険や学校制度などの説明会も開催しました。

また、魚沼市の日本語教室との交流事業として、合同で「春節祭」を開催しました。市民会館の多目的ホールいっばいに参加者とその家族とスタッフが集まり、それぞれ自慢の料理を持ち寄りゲームやカラオケを楽しみました。(写真参照)

平成18年度は、教室開催48回、受講者延480名、スタッフ延325名になりました。

平成19年度は、水曜日の午後は大和公民館、水曜日の夜と日曜日の午前を中央公民館の2会場に分けて実施することになりました。また、家族揃って参加できるように、日本語教室の名前も、「家族で参加できる日本語交流ひろば」に変えました。

平成19年度は、開催延100回、参加者326名とスタッフ361名になりました。

❖ 3年目から現在まで

日本語交流ひろばが始まり5年経過しました。発足当時の華々しさはありませんが、継続的に参加者がおり今日まで続いています。

中央公民館の夜教室の参加者は、以前の参加者と変わってきましたが、再参加する方もいます。平均すると参加者、指導者とも3～4名でほぼマンツーマンの学習ができています。

大和公民館の昼教室は、国際大学の学生の家族が多くなっています。親は熱心に日本語学習で、子ども達は遊びに夢中です。参加者、指導者とも4～5名で進められ

ています。

日本語教室が5年続いてきたことで、広く認知されてきたのではないかと思います。

❖ 日本語教室継続の力は

日本語教室が5年間続いてきたことは多くの要因があります。まず、担当者が熱心に取り組んだことがあげられます。社会教育や公民館事業で最も大切で基本的なことは担当者が一生懸命に取り組む姿勢を参加者に示すことが必要です。

次に、うおぬま国際交流協会、各地区婦人会の全面的な協力が得られたことです。このような事業は、継続的に協力できる人たちがいなければ続けることができなかったと思います。

一番大切なことですが、多くの日本語指導者が協力してくれたことと中心的になってくれた指導者がいたことです。

また、魚沼市に先行している日本語指導団体があって指導いただけたことなどがあげられます。

❖ 日本語教室のこれからの課題は

この教室を継続させていくために重要なことは、指導者養成を行いながら指導者の確保をすることが大切です。そして、市民一般だけでなく市役所内も含め、日本語教室を広く周知することも必要です。

また、家庭問題などの相談を受けることもありますが、相談機関を紹介するなどして深入りしないことが必要ではないかと思います。

この地域で義務教育年齢以外の人たちへの日本語支援はこの教室しかなく、何とか継続し、お互いの文化を理解しながら共生するために国際理解も深めることが大切ではないかと強く感じています。

日本語交流ひろば 指導者 櫻井 徳治

【うおぬま国際交流協会 副会長】



第1回 春節祭集合写真



特別教室のケーキ作り教室